

## 講習会と一年を顧みて

福見建築設計事務所 福見 靖 宏

構造家懇談会中部支部が発足して以来、北陸地区に於ては、活動らしき活動を行って居らず、誠に恥かしい状態でした。



そこで昭和61年10月に現渡辺支部長が、当地方にいらっしゃいまして、親しく会談させて頂き、我々の悩みや、中部支部の今後の方針等を話会い致しました。そしてその時の話により、昭和62年度より北陸地方に支部理事として、1名割当て戴き、3県の協議の結果、各県持廻り方式を採用し、初年は富山県からと云う事で私が就任させて頂きました。

●て現在会員が、富山県3名、石川県7名、福井県3名で、計13名と非常に少なく、何か事業をと考えても、何をして良いか検討しにくい状態でした。又名古屋での支部活動に参加しようとしても、二日掛りで参加しなければならないと云うハンディーも有、皆さん仲々時間が作れないで、つい不参加という事になってしまうのが実情でした。

そこで私が62年度支部総会に出席して、皆様の御意見等を参考にさせていただき、先づ本年の目標として、当地方に於る会員の増強と、一つの事業を行うと云う事にしました。最初の理事に於てその事を提案し、皆様の賛同を得て、早速準備に取り掛かる事にしました。

先づ3県の連絡係として、石川県の増泉氏、福井県の桜川氏に成って戴き、6月に金沢にて初会合を開きました。その時に理事会報告と、当地方としての事業として、61年4月に名古屋で行なわれた、支部鉄骨構造講習会を、再度北陸地方で行なおうという事と、会員増強については、各県10名以上

を目標にして、新入会員の勧誘を進める事に決定致しました。9月には、理事会報告を兼ねて、金沢にて3人の会合を開き、鉄骨構造講習会を2月中旬に開催する事にし、場所を金沢市にする事、又特別講師を、福井大学の山田孝一郎先生をお願いする事に決め、その依頼を福井の桜川氏に当って貰い、10月には先生より心良い内諾を得ました。

12月に北陸地方の会員全員に集まって貰い、(欠席3名)講習会の主旨を説明し了解を得て、63年2月13日(土)に金



沢郵便貯金会館にて開催する事に決定しました。その会議で各自役割分担を決め、福井県には山田先生との折衝に当って貰い、内容その他に就て、おまかせする事にし、石川県には会場の設営、講師の宿泊等の業務をお願いし、富山県はパンフレットの作製、テキストの注文、集金、名簿の作製等を受持つ事にしました。又各県の士会、事務所協会等への後援依頼も各県単位で折衝して戴き、全て御後援をして貰いました。

1月中旬には、早速パンフレットの配布を各県と連絡を取りながら、事務所協会等を中心に配布し、又各県の鉄構工業会にも働き掛けて、人員の確保に努める事にし、一応の締切日を、2月6日に設定し、1月末の状況を各県に報告し、その後の対策は3人でする事に成りました。その他の議題に就て、会員増強、法人化問題等にも、積極的な討議がなされ、今後の北陸地方のあり方等も話し合い、非常に有意義な会議だったと思ひながら散会しました。

一月末日に参加人員のチェックをして見た所、40名位でしたので、目標の50~70名には未だ到達しなかったもので、増泉氏、桜川氏と連絡を取合しながら、人員確保の為の勧誘をする事に決め、各県単位で努力する事にし、その結果締切日には70名の定員一杯となり、一安心と云った所でしたが、実は2月8日に石川県鉄構工業会より、10名の受講する旨を事前に受入れて居ましたので、増泉氏と相談し、会場の席の確保に努力して貰いました。前日には会場その他の事についての打合せの為会館で宿泊し、講師の先生との下打合せを、又会場の準備の確認をしておきました。当日の降雪を、非常に心配して居りましたが、幸いにも好天に恵まれて、参加者の到着も割合順調で、定刻には八割程度になり、15分後には、ほぼ予定通りの出席者になり、当日の欠席者は急用の3名と、

工業会の4名程度で、合計77名の出席でした。

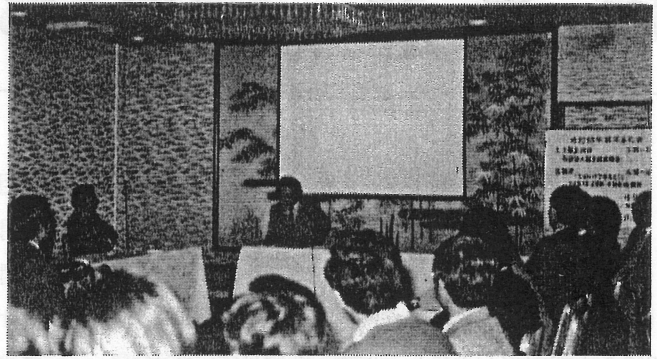
司会は、私が勤め、最初に渡辺支部長に挨拶をして戴き、構造家懇談会の歴史、経過と今回の講習会の主旨を説明して貰い、続いて山田先生による、特別講演に入り、先生の非常に巧みな話術で鉄骨構造全般に渡っての話や、鋼材の特性、計算方法の善悪等、少し観点を交えての話しをして戴きました。

又、原先生にはOHPを利用して、構造計算概論から始まり、計算上の留意点等、又高炉平電炉の材質問題等も、わかりやすく説明下さいました。昼食後には橋村先生に、構造計画について解説して戴き、計画の順序、計画の巧拙が、その後の設計に大いなる影響ある事を力説され、構造計画はより慎重に行う様にアドバイスを受けました。最後の桐山先生より保有耐力についての講義を受け、建築物の構造計算を行う前に、概略の保有耐力を検討して計画をチェックする必要性を説かれました。尚講義の後45分間質疑応答に移り、活発な話合いがなされ、盛会の内に無事終了致しました。その後会員全員にて、支部長と講師の先生方を囲んで懇談会を開き、法人化問題、それに伴う会員増強の件を話し合い、各県10名以上を4月入会の方向へ、おし進める事にしました。今回の講習会の総括としては、初めての事ですので、部分的な失敗は有りましたが総体的には成功した方ではないかと思えます。これも支部会員全員の暖かい協力の賜物と深く感謝し、今後の会の発展につながれば良いかと思えます。最後に、1年を顧みて大きい事業は出来ませんでした。活動最初の年としては、北陸地方の会員の融和が計れたので充分ではないかと思えます。今後共、支部の皆様の御指導を仰ぎながら、体制を整えて行きたいと思えますので、よろしくお願い致します。

## 新年互礼会と講演

1月23日新年互礼会が催されました。当日は、西ドイツルール大学を中心に研究活動を続けられ、帰国された多賀直恒名古屋大学教授の講演と映画“長大橋の基礎を築く 総集編”がありました。講演要旨は事業委員会松久さんにまとめてもらいました。

多賀先生は、昭和62年1月末から9カ月間にわたって西ドイツのルール大学へ文部省の在外研究員として赴かれ、土と基礎との動的相互作用をテーマとして研究をされ、帰国されました。難しい話は少しにしていただき、専らみやげ話を中心



に講演していただきました。

興味深く伺ったものは、遠心力によって高重力場をつくり土と基礎との相互作用についての実験であった。これは長さが4mの腕の先端にバケットを取り付けて回転する事によって、可変の重力場をつくり実験を行うもので、ドイツでも初めての実験装置で出来て間もないそうである。その研究成果については機会を待って発表される事と思われる。

ルール大学は人口が約40万人程度の地方都市にあって、学生と大学関係者が約4万人という事で、都市の規模に比べて大学の規模の大きいのに驚いたが、西ドイツの大学はすべて国立大学で総合大学が多い事などから、日本の制度とはかなり様子が異なっているようである。

勤務時間に対する考え方もかなり異なっており、残業をすする事は殆どないそうである。

冬には雪は余り降らないが、気温は低く最低 $-20^{\circ}\text{C}$ ・最高 $-5^{\circ}\text{C}$ という日も少なくなく、外に出ると肌が痛いという事である。緯度が高いため、季節によって日の暮れ方がずいぶん違うようで、冬では帰宅時間頃にはすでに暗く、一方夏には午後10時頃までは十分明るく時間を持て余し気味であったそうである。

ドイツ人は母国語に対して信念(?)を持っており、日常会話では英語を使わないので、アパートの叔母さんとの会話には手こづられたようである。また付き合いの方法も個人对个人ではなく、家族単位での交際が多いそうである。

休暇を利用されヨーロッパ各地を見聞されたが、交通機関の乗継ぎで苦労された事、当日の宿泊場所を確保するのに10軒近くもホテルを探して、最後に親切な方に巡り合ってやっとホテルが見つかった事、朝早くから夕刻まで徒歩で市内を見物された事等、先生独特の方法で旅行されたお話があった。私も知らない町を地図と勘で歩くことが好きで、町を覚えるためには一番良い手段であると思っている。

講演当日は共通一次試験日になっていたが、貴重な時間を割いていただき、見知らぬ国々の色々な事情を伺えて有難かった。

## 篠原一男健在

青島設計室 塚田 守

相手（施主）の考え方を意識しないで造形する建築家と、相手の考え方を重視していかに売れるデザインをするかを模索する工業デザイナーの2人の講演会は組合せ人選共新鮮でとてもいい企画であった。

工業デザイナーの諸星和夫はトヨタ自動車での車のデザインをするデザイナーが現場体験から発する歯切れよく迫力のあるものであった。特筆すべきは建築の講演会では絶対きくことの出来ない「売れるデザイン」という言葉にいささか驚き、そんなに簡単にいさされるものかといささか疑問が残った。

さまからみると講演会によく出かける1人に見えるらしいが私は多い方ではないと思う。しかし篠原一男だけは別である。今までに見学会、講演会あわせて3回出掛けている。

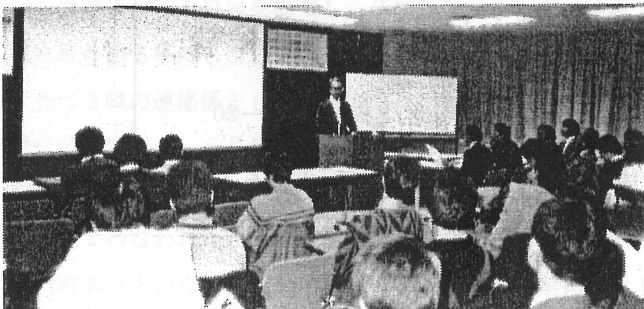
見学会は東京まで出かけ、白の家、地の家、篠さんの家と3作1日がかかりで30数人の1人として見学会に参加する。あれから15年になる。

見学会では10年近くになる白の家が設計意図通り、汚れなく使用されているのにびっくりし、講演会2回目では谷川さんの住宅、山の斜面の裸地に木造の三角屋根でおおわれたスライドに、語りの中ではマジンという言葉が鮮烈に印象に残っている。前3回の心良い印象があり、今回も多忙中の最中出掛けた。期待通り素晴らしいものであった。

住宅（久我山の家からハウスインヨコハマ）から100年記念館につながる篠原の作品のプロセスが静かに丁寧に語られ

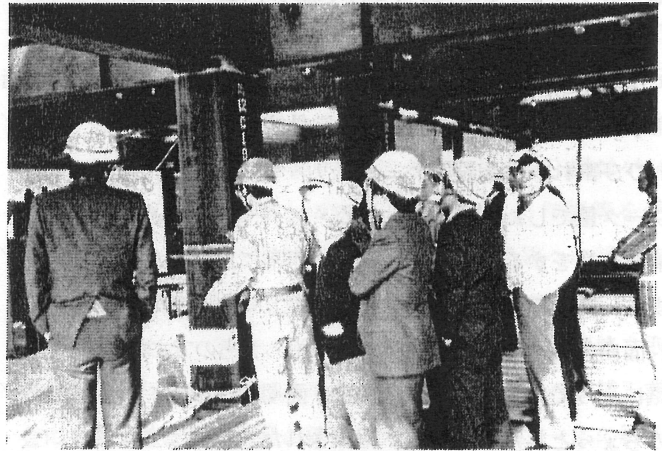
昨年11月香港上海銀行を見学し、2週間後にロジャースのロイド本社ビルを本人のスライドによって観る。その直後篠原の東工大100年記念館へと3つの作品はポストモダン主流の現在、新しい切り口をみせられた思いである。

テクノロジーが造形の前面におし出された3つの作品は明快で歯切れよく、緊張感のあるものであった。構造軀体が主体になるこれらの作品に久しぶり出会ったせいもあり感動をおぼえた。



## AMNAT見学会

3月19日 完成すれば高さ110mあり、名古屋地区では一番のノッポビルとなるAMNATの見学会が竹中工務店のご好意により催された。この建物については第1回技術委員会で基礎の計画について発表があり、広報No.6においても紹介してあります。午後1時半現場事務所の会議室にてまず宮崎作業所長より工事概要と施工計画の話しがあり、続いて構造設計を担当された正会員の佐橋さんより、基礎の計画・架構の計画および応力測定計画とデータの間中間結果の紹介ののち鉄骨の建方をあと一節残らず状況の建物の見学に移りました。見学後の質疑時間のほかに見学中も参加者より佐橋さんをはじめ関係の方々に熱心な質問があり、盛会裡に散会しました。



### 支部総会のお知らせ

日時 6月18日（土） 午後2時00分

場所 弥生会館

構造家懇談会の法人化に関して重要な総会となります。ぜひご出席下さい。

## 会 員 紹 介

日建設計名古屋事務所 桐山 宏之

昭和45年に卒業以来、足かけ18年間構造設計ひとすじ。一度は経験してみたいと思っている現場監理もチャンスがなく、建物の造られ方、仕上材の納り、設備の配管・配線の納りなどの知識が欠落した、アンバランスなままいつのまにか18年が



過ぎてしまいました。せめて設計図の段階でもと思い、意匠図、設備図を少しはじっくり見ようと思うのですが、最近は構造設計自体がスケジュールに追われてなかなか思うようになりません。(これは能力不足の証明かも)

構造懇には昭和58年に入会し、ずっと技術委員会のメンバーとしてお手伝いさせて頂いています。鉄骨柱脚の特集、コンクリートひび割れ、構造設計チェックリストの作成などは、かなりのワーク量でしたが委員長はじめメンバーの方々と知り合い、情報交換をする場を持たたことは非常に良かったと思っています。昨年のテーマ「設計例の紹介」は、「少ないワーク量、面白い企画」という運営方針に沿ったものですが、私も大変気に入っています。新しい知識、画期的な技術、構造設計上のちょっとした工夫など、紹介された設計例は生きた教材といえます。ただ、昨年度は松・竹・梅でいうと松に属する例が比較的多かった感じがします。もっと、竹・梅といった日常的に多い物件での「ちょっとした工夫」「苦勞した点」を気軽に紹介しあう場になれば良いと思っています。

## 支 部 の 動 き

- 1 / 23 新年互礼会 一於弥生会館一 33名出席
- 2 / 13 S造講習会 一北陸(金沢)一 77名参加
- 3 / 19 AMNAT見学会 34名参加

### 理 事 会

- 1 / 13 第6回 愛知県構造審査チェックリストの運用と解説編の出版取扱いについて、北陸地区S造講習会開催準備について、その他
- 3 / 17 第7回 会(東京)の理事会報告(新法人定款案・会費の値上げと入会資格の引下げ・63、64年度予算案)、北陸S造講習会報告、愛知県構造審査チェックリストについて、支部会員状況、その他
- 3 / 31 臨時(技術委員会後) 法人化の進展状況と支部総会の開催と時期について

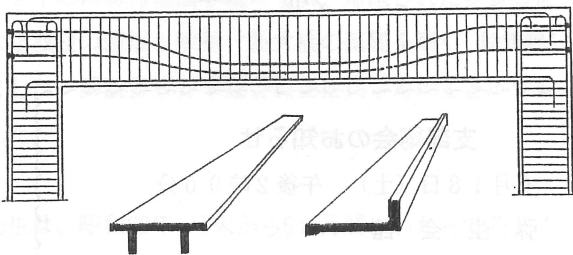
### 技 術 委 員 会

- 12 / 18 第5回委員会
  - ・鉄骨造倉庫(積載荷重1.5t/m<sup>2</sup>)の床構造(野田)
  - ・鹿島建設名古屋支店ビルの構造(遠藤)
- 2 / 25 第6回委員会
  - ・東山タワーの設計(松久)
  - ・新しい発想による構造架構法、スーパーウィング
- 3 / 31 第7回委員会
  - ・豊田駅西口再開発事業の設計及び施工(鈴木・水野)
  - ・東海ビル(岐阜)の構造設計(飯島)
  - ・鉄骨柱脚の設計例についての協力方法検討

事業委員会 12 / 15、 3 / 2

広報委員会 3 / 1、 3 / 31

豊かな建築空間の創造に  
PCは、確かな技術で、お応えします。



- プレストレスト・コンクリート
- プレキャスト・プレストレスト・コンクリート

Ⓚ 技術と信用

オリエンタル コンクリート 株式会社

名古屋支店 名古屋市中村区名駅4-27-20

T E L 0 5 2 - 5 8 2 - 1 0 2 1